

| | | | | | |
|--|--|------------|--|--------------|------|
| 科目名 ナンバリングコード | 生命・看護倫理 NUS1113MN3 | 必修科目 | 2 年次 1 学期 | 講義 | 1 単位 |
| 科目責任者 | 医学部看護学科 教授 三橋 睦子 | | | | |
| 教育目標 到達目標 | <p>教育目標</p> <p>1) 保健・医療・福祉における、倫理、生命・人の尊厳について理解する。 2) 看護職者の職業倫理を理解し、看護職者が果たす倫理的責務、生命・人の尊厳について理解する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 生命倫理、医療倫理、臨床倫理などの関連領域の倫理の変遷を理解できる。 2) 医療・看護における倫理に関する規範・原則や指針（ヘルシンキ宣言等）について説明できる。 3) 医療の進歩に伴う倫理的課題の動向について説明できる。 4) 看護職者の倫理的責任と社会的（法的）責任について説明できる。 5) 医療や看護の現場における倫理的課題と調整方法について説明できる。 6) 多職種間での情報共有時における、個人情報保護や守秘義務の遵守への配慮について説明できる。 7) 薬害被害について倫理的に再考できる。</p> | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 授業回数 | 授業の内容 | 担当者等 | 準備学習 (予習・復習等) | 必要 時間 | |
| 第 1 回 | 生命倫理の変遷と課題 | 三橋【講義】 | 準備学習課題： 1. ヒポクラテスの誓い 2. 医療倫理の 4 原則 3. バルセロナ宣言 4. ジュネーブ宣言とは 5. ICN 倫理綱領とは 6. 日本：看護師倫理綱領 7. リスボン宣言の原則 8. 患者の権利章典 9. オタワ憲章とは 10. ニュルンベルグ綱領 11. ヘルシンキ宣言 12. ベルモントレポート 13. ナイチンゲール誓詞 14. アドボカシーとは | 各回 30 分以上 | |
| 第 2 回 | 患者の権利と生命倫理 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 3 回 | 医療倫理の変遷と課題 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 4 回 | 看護の責任と倫理、看護倫理の基礎 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 5 回 | 看護職の責任：倫理的責任と社会的（法的）責任 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 6 回 | 看護倫理の変遷と課題 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 7 回 | コンパッション、ケアリング、患者中心の看護 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 8 回 | 患者情報と守秘義務 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 9 回 | 医療者－患者関係におけるコミュニケーション | 三橋【講義】 | | | |
| 第 10 回 | B 型肝炎当事者に学ぶ 医療者に必要な倫理的姿勢 | 特別講義講師【講義】 | | | |
| 第 11 回 | 臨地実習に必要な看護倫理 | 三橋【講義】 | | | |
| 第 12 回 | 倫理的意思決定のステップ（事例検討） | 三橋【講義】 | | | |
| 第 13 回 | 看護実践で総合した倫理的問題について考える (原則に基づくアプローチ) | 三橋【講義】 | | | |
| 第 14 回 | サリドマイド薬害被害と真相 | 特別講義講師【講義】 | | | |
| 第 15 回 | 最先端医療に関わる倫理 | 三橋【講義】 | | | |
| テキスト | 小西恵美子編：看護倫理（改訂第 3 版）よい看護・よい看護師への道しるべ，南江堂，2021 | | | | |
| 参考書 | ライ ST, ジョンストン MJ(2006)/ 片田範子, 山本あい子訳：看護実践の倫理 第 3 版，日本看護協会出版会，2010 杉谷藤子・川合政恵：『看護者の倫理綱領』で読み解くベッドサイドの看護倫理事例 30，日本看護協会出版会，2007 盛永審一郎・長島隆編：看護学生のための医療倫理，丸善出版，2012 | | | | |
| 成績評価 | | | | | |
| 方法（割合） | 基準 | | | | |
| 筆記試験（75%） レポート（15%） 出席状況・授業 での発表（10%） | ・到達目標の達成度を正答割合で評価する。 ・レポートの提出状況と内容をポイント化し、評価する。 ・出席状況と参加姿勢をポイント化し、評価する。 | | | | |
| 課題（レポート等）に対するフィードバック | 課題（レポート等）は評価内容を講義時間内に伝える。 | | | | |

| | | | | | |
|--|--|--------------|-----------------------------|-------|------|
| 科目名 ナンバリングコード | 診療に伴う援助技術 NUS2225MN3 | 必修科目 | 2 年次 A クラス・B クラス 1 学期 | 講義・演習 | 2 単位 |
| 科目責任者 | 医学部看護学科 講師 前野 里子 | | | | |
| 科目担当者 | 医学部看護学科 森本 紀巳子、加悦 美恵、宮本 いずみ、三次 貴大、山田 泰子、岡村 光子、松島 亜希子、山下 寛子 | | | | |
| 教育目標 到達目標 | <p>教育目標</p> <p>1) 健康障害を持ち医療的な処置を必要とする対象者に対して、主に苦痛の緩和・健康回復のために実施する頻度が高い看護援助技術を学修し、看護実践への適応を理解する。</p> <p>2) 診療の補助に関わる看護技術の原理原則や援助方法について、安全の視点をふまえて学修する。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 患者の安全を守るために必要な観察力と事故防止の方法を身につける。</p> <p>2) 排泄機能障害のある患者の症状緩和に必要な基本的技術を身につける。</p> <p>3) 摂食嚥下機能障害のある患者の症状緩和に必要な基本的技術を身につける。</p> <p>4) 薬物療法に関する基本的な援助技術を身につける。</p> <p>5) 診察・検査に関する基本的な援助技術を身につける。</p> <p>6) 呼吸異常がある患者の症状緩和に必要な基本的技術を身につける。</p> | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 授業回数 | 授業の内容 | 担当者等 | 準備学習（予習・復習等） | 必要時間 | |
| 第1・2回 | ガイダンス / 感染防止 / ガウテック | 前野・三次【講義・演習】 | シラバスの確認 | 30分 | |
| 第3・4回 | 無菌操作（創傷ケア、滅菌手袋装着、包帯法） | 前野・全員【講義・演習】 | 課題1 無菌操作 | 30分 | |
| 第5・6回 | 排泄機能障害の看護 / 導尿 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題2 導尿と事例 | 30分 | |
| 第7・8回 | 排泄機能障害の看護 / 膀胱内留置カテーテル | 前野・全員【講義・演習】 | 課題3 膀胱留置カテーテル | 30分 | |
| 第9・10回 | 排泄機能障害の看護 / 浣腸 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題4 浣腸 | 30分 | |
| 第11回 | 摂食嚥下機能障害の看護 | 前野・三次【講義】 | 課題5 嚥下障害の事例 | 30分 | |
| 第12・13回 | 摂食嚥下機能障害の看護 / 経管栄養 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題6 経管栄養 | 30分 | |
| 第14・15回 | 薬物療法 / 経口与薬 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題7 経口与薬と事例 | 30分 | |
| 第16・17回 | 食・排泄機能障害の看護まとめ | 前野・全員【講義・演習】 | 技術練習事例 | 45分 | |
| 第18・19回 | 薬物療法 / 皮下注射 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題8 皮下注射 | 30分 | |
| 第20・21回 | 薬物療法 / 筋肉注射 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題9 筋肉注射 | 30分 | |
| 第22回 | 検査時の看護 / 検査の種類 | 前野・三次【講義】 | | 30分 | |
| 第23・24回 | 静脈血採血 | 三次・全員【講義・演習】 | 課題10 静脈採血・事例 | 30分 | |
| 第25・26回 | 静脈内注射、点滴静脈内注射 | 三次・全員【講義・演習】 | 課題11 静脈内注射 | 30分 | |
| 第27・28回 | 呼吸異常時の看護 / 吸入、吸引 | 宮本・全員【講義・演習】 | 課題12 吸入、吸引 | 30分 | |
| 第29・30回 | 総合演習 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題13 事例 | 30分 | |
| テキスト | 深井喜代子編:新体系看護学全書基礎看護学②③ 基礎看護技術I・II, メヂカルフレンド社 (1年次購入分) | | | | |
| 参考書 | 村中陽子他:学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版, 医歯薬出版株式会社, 2019 三木明德 監修:人体の構造からわかる看護技術のエッセンス, 医歯薬出版株式会社, 2019 など | | | | |
| 成績評価 | | | | | |
| 方法(割合) | 基準 | | | | |
| 筆記試験 (60%) 実技試験 (30%) レポート (10%) | <p>達成度を正答率で評価する。</p> <p>指定する事例課題に対する看護援助技術を評価する。</p> <p>課題1～13の予習・復習レポートの提出状況を評価する。</p> <p>ただし、上記評価内容のいずれにおいても6割以上の達成を履修単位修得の基準とする。</p> | | | | |
| 課題(レポート等)に対するフィードバック | 課題の予習・復習レポートを添削する。また、質問に適宜返答して返却する。 | | | | |

| | | | | | | |
|-----------------------------|--|-------------------------------|---|------------|-----|--|
| 科目名 ナンバリングコード | フィジカルアセスメント技術 NUS2117MN3 | 必修科目 | 2年次 2学期 | 講義・演習 | 1単位 | |
| 科目責任者 | 医学部看護学科 講師 河原田 康貴 | | | | | |
| 科目担当者 | 医学部看護学科 三橋 睦子、孫田 千恵、専任教員1名 | | | | | |
| 教育目標 到達目標 | <p>教育目標</p> <p>1) 対象の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメント技術を修得し、系統的なアセスメント能力を身につけることができる。</p> <p>2) フィジカルアセスメントを活用し、対象に必要な看護援助を考察できる。</p> <p>到達目標</p> <p>1) 身体各部のフィジカルアセスメントに必要な基本的知識と技術、態度を習得できる。</p> <p>2) 基本的な知識と技術、態度をもとに、全身を系統的に観察し、アセスメントすることができる。</p> <p>3) アセスメントから得た情報をもとに、総合的な臨床看護診断を行うことができる。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 授業回数 | 授業の内容 | 担当者等 | 準備学習 (予習・復習等) | 必要 時間 | | |
| 第1回 | フィジカルアセスメント概論 問診とフィジカルイグザミネーション 外皮系のフィジカルアセスメント | 河原田【講義】 | 各講義の前には必ずテキストを読み、関連する人体の構造や機能について既習内容を十分に復習しましょう。 | 各30分 程度 | | |
| 第2・3回 第4回 | 循環器系のフィジカルアセスメント 循環器系のフィジカルアセスメント演習 | 河原田【講義】 担当者全員【演習】 | さらに該当するレポート課題を解き、講義に臨んで下さい。 | | | |
| 第5・6回 第7回 | 呼吸器系のフィジカルアセスメント 呼吸器系のフィジカルアセスメント演習 | 三橋【講義】 担当者全員【演習】 | 講義後は学修したフィジカルアセスメントについて、繰り返し練習し、演習に臨んで下さい。 | | | |
| 第8・9回 第10・11回 第12・13回 | 腹部のフィジカルアセスメント 脳・神経系のフィジカルアセスメント 運動器系のフィジカルアセスメント | 河原田【講義】 河原田【講義】 河原田【講義】 | | | | |
| 第14・15回 | 症状別・徴候別フィジカルアセスメント | 河原田・三橋【講義・演習】 | | | | |
| テキスト | 医療情報科学研究所編：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント、Medic Media、2019 | | | | | |
| 参考書 | 藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド、学研メディカル秀潤社、2017 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック―目と手と耳でここまでわかる、医学書院、2011 阿部幸恵編：症状別 病態生理とフィジカルアセスメント、照林社、2015 | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | |
| 方法（割合） | 基準 | | | | | |
| 筆記試験（80%） | 達成度を正答率で評価する。 | | | | | |
| レポート（10%） | 課題レポートの提出状況と内容をポイント化し、評価する。 | | | | | |
| 受講態度（10%） | 講義・演習への出席状況と受講姿勢をポイント化し、評価する。 | | | | | |
| 課題（レポート等）に対するフィードバック | レポートの返却・フィードバックは、講義または演習内に適宜行う。 | | | | | |

| | | | | | | |
|------------------------|---|--------------|-----------------------|-----------|-----|-----------------------------|
| 科目名 ナンバリングコード | 人間関係方法論 NUS1172MN3 | 必修科目 | 2年次 1学期 | 講義・演習 | 1単位 | |
| 科目責任者 | 医学部看護学科 准教授 舞弓 京子 | | | | | |
| 科目担当者 | 医学部看護学科 福浦 善友、松島 亜希子 非常勤講師 植田 友貴 (西九州大学) | | | | | |
| 教育目標 到達目標 | <p>教育目標</p> <p>看護師は、対象を深く理解し、適切な態度で接することが望まれる。関係づくりの基礎となるコミュニケーション技術について学び、信頼関係に基づいたその人らしい生活への支援を目指す。またチームの中でのコミュニケーションとして、有意義なカンファレンスを行う技術について学習する。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対人関係におけるコミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。 2) 自分の対人傾向と課題を明らかにできる。 3) 対象者を理解するための聴き方、伝え方の技術を習得し、援助関係を形成できる。 4) 看護の対象と援助的コミュニケーションをとることができる。 5) プロセスレコードで看護場面を再構成し、相互関係を分析・考察できる。 6) 言語的コミュニケーションが困難な人々とのコミュニケーション技法を理解する。 7) 集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。 8) チームの一員として報告・連絡・相談が重要であることを理解できる。 9) カンファレンスにおける役割を理解し、カンファレンスを実施できる。 | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 授業回数 | 授業の内容 | 担当者等 | 準備学習 (予習・復習等) | 必要時間 | | |
| 第1回 | コミュニケーション 自己理解・他者理解 | 舞弓【講義・演習】 | 日頃の対人関係を通して、自己理解を深める。 | 各回 30分 | | |
| 第2回 | 人間関係に関する看護理論 | 舞弓【講義】 | | | | |
| 第3回 | 患者・看護師関係 (プロセスレコード) | 舞弓【講義】 | | | | |
| 第4回 | 看護コミュニケーション① | 舞弓・福浦・松島【演習】 | | | | |
| 第5回 | 看護コミュニケーション② | 舞弓【講義】 | | | | |
| 第6回 | 看護コミュニケーション③ | 舞弓・福浦・松島【演習】 | | | | |
| 第7回 | 患者とのコミュニケーション (実技試験) | 舞弓・福浦・松島【演習】 | | | | |
| 第8回 | 看護コミュニケーション④ | 舞弓【講義】 | | | | |
| 第9回 | ノンバーバルコミュニケーション | 植田【講義】 | | | | |
| 第10回 | 看護チームとグループダイナミクス | 舞弓【講義・演習】 | | | | |
| 第11回 | カンファレンス① | 舞弓・福浦・松島【演習】 | | | | グループワークの中で生じた自己の課題についてまとめる。 |
| 第12回 | カンファレンス② | 舞弓【講義・演習】 | | | | |
| 第13回 | カンファレンス③ | 舞弓・福浦・松島【演習】 | | | | |
| 第14回 | カンファレンス④ | 舞弓【講義】 | | | | |
| 第15回 | 信頼関係構築について | 舞弓【講義】 | | | | |
| テキスト | 必要時、資料を配布する。 | | | | | |
| 参考書 | 宮本真巳編著：援助技法としてのプロセスレコード、精神看護出版、2003 | | | | | |
| 成績評価 | | | | | | |
| 方法 (割合) | 基準 | | | | | |
| 実技試験 (50%) | 実技試験：患者—看護師関係を実践とプロセスレコードで再構成する。 | | | | | |
| 筆記試験 (50%) | 対人関係、看護理論、カンファレンスについて問題から出題する。 | | | | | |
| 課題 (レポート等) に対するフィードバック | 第9回でフィードバックする。 | | | | | |

| | | | | | |
|------------------------|---|---------------------------------|---|-------|------|
| 科目名 ナンバリングコード | 回復期援助技術 NUS2116MN3 | 必修科目 | 2 年次 2 学期 | 講義・演習 | 1 単位 |
| 科目責任者 | 医学部看護学科 講師 孫田 千恵 | | | | |
| 科目担当者 | 医学部看護学科 姫野 深雪、渡邊 理恵、前野 里子、宮本 いずみ、新 裕紀子 大学病院リハビリテーション部 加藤 美津子、原野 裕司、鳥取 博 大学病院看護部 中村 信也 | | | | |
| 教育目標 到達目標 | <p>教育目標 回復期の概念を理解し、疾病や障害をもった人が社会生活に再適応できるための援助および社会システムと資源について学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康問題の治療過程・回復期における看護について説明できる。 2) 障害がもたらす心身への影響を理解し、障害受容・セルフケア理論について説明できる。 3) 生活の再構築を目指すための援助技術を修得できる。 4) 治療に伴って生じる健康問題と看護援助について説明できる。 5) 回復期における看護師の役割および多職種との連携について説明できる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 授業回数 | 授業の内容 | 担当者等 | 準備学習(予習復習等) | 必要時間 | |
| 第 1 回 | 総論 1) 健康障害の治療過程と回復期における看護 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| 第 2 回 | 総論 2) 回復期看護：障害受容、身体障害者福祉 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| 第 3 回 | 総論 3) 回復期看護：セルフケア理論、ADL の評価 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| 第 4 回 | 疾病に伴う障害と生活の再構築を目指す援助技術 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| 第 5 回 | 1) 運動機能障害のある人への回復期看護 理学療法の実際：関節可動域訓練、筋力増強訓練 | 加藤・孫田・姫野・ 渡邊・前野・宮本・ 新【演習】 | | 30 分 | |
| 第 6 回 | 作業療法の実際：補助具・自助具・義肢・装具 | 原野・孫田【講義・ 演習】 | テキストの該当箇所 を熟読し、それぞ れの授業内容をイメ ージできるように予 習する。 | 30 分 | |
| 第 7 回 | 2) 高次脳機能障害・言語機能障害のある人への回復期 看護 | 孫田【講義】 | | 60 分 | |
| 第 8 回 | 言語聴覚療法の実際：直接訓練・関節訓練 | 鳥取・孫田・姫野・ 渡邊・前野・宮本・ 新【演習】 | 実施した講義・演習 内容についてテキ スト・配布資料で復 習する。 | 60 分 | |
| 第 9 回 | 3) 循環機能障害のある人への回復期看護 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| 第 10 回 | 4) 呼吸機能障害のある人への回復期看護 | 中村【講義】 | 第 1・5・9・11・13 回は課題を課す。 | 60 分 | |
| 第 11 回 | 呼吸理学療法の実際： 吸気・呼気介助、肋間ストレッチ | 中村・孫田・姫野・ 渡邊・前野・宮本・ 新【演習】 | | 30 分 | |
| 第 12 回 | 治療に伴って生じる健康問題と看護援助 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| 第 13 回 | 1) がんサバイバーを支える看護 | 姫野【講義】 | | 60 分 | |
| 第 14 回 | 2) がんサバイバーを支える看護 事例演習：グループワーク | 姫野・孫田・前野・ 宮本【講義・演習】 | | 30 分 | |
| 第 15 回 | シームレスな在宅療法への移行 | 孫田【講義】 | | 30 分 | |
| テキスト | 酒井郁子・金城利雄 編集：リハビリテーション看護、南江堂、2021 | | | | |
| 参考書 | 奥宮暁子 編集：ナーシング・グラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護、メディカ出版、2022 | | | | |
| 成績評価 | | | | | |
| 方法 (割合) | 基準 | | | | |
| 筆記試験 (70%) | 到達目標の達成度を正答率で評価する。 | | | | |
| レポート (20%) | レポートの提出状況と内容をポイント化し評価する。 | | | | |
| 受講態度 (10%) | 講義・演習への出席状況および参加態度 (積極性、意見・質問など) をポイント化し、評価する。 | | | | |
| 課題 (レポート等) に対するフィードバック | レポートは採点后に返却する。 | | | | |

| | | | | | |
|--------------------------|--|--------------|--|-------|------|
| 科目名 ナンバリングコード | 看護過程 I NUS1126MN3 | 必修科目 | 2 年次 2 学期 | 講義・演習 | 1 単位 |
| 科目責任者 | 医学部看護学科 講師 前野 里子 | | | | |
| 科目担当者 | 医学部看護学科 森本 紀巳子、加悦 美恵、宮本 いずみ、三次 貴大、山田 泰子 | | | | |
| 教育目標 到達目標 | <p>教育目標 健康上の問題や障害をもつ人の看護の必要性をアセスメントし、看護過程を展開するための概念と思考プロセスの基本を学ぶ。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の意義や目的について説明できる。 2) 看護過程の構成要素を説明できる。 3) アセスメントとは何かを説明できる。 4) 既習の知識を活用しながら、情報を整理・アセスメントし、必要な看護を導き出すことができる。 5) 看護問題を解決するための看護計画を立案することができる。 6) 看護過程の評価の視点を説明できる。 | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| 授業回数 | 授業の内容 | 担当者等 | 準備学習(予習・復習等) | 必要時間 | |
| 第 1 回 | 看護過程の意義・目的と基盤となる考え方 看護記録に関する法的規定 | 前野・全員【講義・演習】 | | 30 分 | |
| 第 2 回 | 看護過程の構成要素、看護に必要な情報 収集、アセスメントの枠組み | 前野・全員【講義・演習】 | (全体を通して) 事前にテキストの該当 箇所を読み予習して受 講する。 | 60 分 | |
| 第 3 回 | アセスメント (情報の解釈、推理・推論) | 前野・全員【講義・演習】 | | 60 分 | |
| 第 4 回 | 問題の統合 (関連図および全体像) | 前野・全員【講義・演習】 | | 60 分 | |
| 第 5 回 | 看護問題の抽出、看護診断 | 前野・全員【講義・演習】 | | 60 分 | |
| 第 6 回 | 看護計画の立案 | 前野・全員【講義・演習】 | 課題は講義内容・配布 資料、テキストを活用 して取り組む。 | 60 分 | |
| 第 7 回 | 看護計画の実施と記録 (SOAP) 計画の評価・修正 | 前野・全員【講義・演習】 | | 60 分 | |
| 第 8 回 | 看護過程まとめ | 前野・全員【講義・演習】 | | 60 分 | |
| テキスト | 江川隆子編集：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断，ヌーヴェルヒロカワ，2019 深井喜代子編：新体系 看護学全書 専門分野I 基礎看護学② 基礎看護技術I、メヂカルフレンド社 (1 年次購入分) | | | | |
| 参考書 | 授業中に紹介する。 | | | | |
| 成績評価 | | | | | |
| 方法 (割合) | 基準 | | | | |
| 筆記試験 (50%) レポート (50%) | 達成目標の到達度を正答率で評価する。 個人で作成した看護過程展開のレポート提出状況、内容について評価する。 | | | | |
| 課題 (レポート等) に対するフィードバック | レポートは添削後返却する。 | | | | |